

平成21年度事務事業評価シート (20年度実施事業分)

事業番号		11 09 03	中期総合計画主要施策番号		1-07	担当課	部・課	建設部 建築指導課	
事業名		地域景観育成事業					内線	3686	
							E-mail	kenchiku@pref.nagano.jp	
事業の概要等	事業の目的	県下10地域に設置された地域景観協議会による景観の育成などのための様々な活動を支援するほか、良好な景観の阻害要因を取り除くための修景事業への助成などにより、本県の優れた景観の保全などを図る。							
	事業の必要性	[現状(事業の目的との間にどのようなギャップがあるか)] 本県の景観は県民共有のかけがえのない財産であることから、様々な主体が協働して、景観の保全・育成に努め、長く後世に伝えることが求められている。							
		[原因分析(ギャップが発生している原因は何か)] ・景観への配慮が十分になされていない無秩序な開発行為などにより、恵まれた自然景観などが損なわれるおそれがある。 ・道路等の沿道景観の阻害要因ともなりかねない屋外広告物などが少なからず存在する。							
		[課題の特定(事業の実施により解決しようとする課題は何か)] 良好な景観の保全などのためには、様々な主体による不断の取り組みが不可欠なことから、各地域景観協議会への支援などを通じて、景観の保全や地域の特性を生かした景観の創出に繋がる取り組みへの支援を継続してゆく。							
	事業内容	・地域景観協議会の運営や活動等に要する経費への支援(報償費、旅費、需用費、役務費、補助金等) ・地域景観整備事業補助金による支援 補助対象事業: 特定に地区における屋外広告物の除却などの修景に資する事業等 補助率等: 市町村補助額の1/2(事業費の1/3)、補助限度額: 40万円(修景事業の場合) ・景観育成住民協定の締結支援や、景観行政団体への移行を検討中の市町村への助言 など							
実施期間	H6 ~		根拠法令等	地域景観育成事業補助金交付要綱 等					
成果と達成状況	事業の目指す成果		達成度(期待どおり)の判定基準(H20)			達成状況		評価	
	・各地域景観協議会の活動への支援、地域景観整備、景観育成住民協定の締結を促進し、本県の優れた景観の保全を図る。 (平成24年度までに景観育成住民協定認定数を170件とする。)		・各協議会ごとに景観の保全・育成に資する事業を企画し、実施する。 ・補助事業である修景事業(5地区程度)については、計画に沿った執行を行う。 ・平成24年度の目標達成に向けて、住民協定の認定数を161件まで増加させる。			・各協議会のほとんどで特色のある様々な事業が実施された。また、「長野県景観フォーラムINA」を上伊那の地域景観協議会等と共催で企画し成功裏に実施できた。 ・修景事業は7件を実施した。 ・住民協定は2件を認定し161件とすることができた。		a.期待以上 b.期待どおり c.やや下回る d.期待以下	
事業コスト	区 分		単位	19年度	20年度	21年度(当初)	20年度の概要		
	最終予算額 (A)		千円	3,615	3,444	3,189	国庫・県単	県単	
	決 算 額 (B)		千円	2,424	2,163		実施方法	直接、補助	
	B(H21はA)のうち一般財源		千円	2,424	1,269	3,189	歳出節別内訳等	・報償費 295 ・需用費 798 ・使用料等 108 ・補助金等 648	
	概 算 人件費	従事する職員数	人	1.10	1.10	1.10	(単位: 千円)	・旅費 120 ・役務費 194	
	概算人件費 (C)	千円	7,854	7,864	7,864				
概算事業費 (B(H21はA) + C)		千円	10,278	10,027	11,053				
事業実績	内 容		単位	19年度	20年度	21年度(予定)	左記以外の20年度の実績		
	景観育成住民協定認定数(累計)		件	5(159)	2(161)	3(164)	・「長野県景観育成計画の概要」を1,500部作成して配布した。		
	修景事業		件	5	7	9	・「美しい信州の景観づくり功労賞」として、県下の5団体を上記フォーラムにおいて表彰した。		
	各協議会事業等への出席者数		名	924	916				
事業の課題	区 分		判 定 ・ 説 明						
	事業のニーズの変化		増加	横ばい	減少	判定の説明	この事業は継続的な実施が不可欠であり、県は現在の側面的な支援を基本的なスタンスとして、景観行政の適切な執行に引き続き取り組む必要がある。		
	県の関与を見直す余地		余地なし	当面余地なし	余地あり				
	有効性を高める余地		余地なし	当面余地なし	余地あり				
	効率性を高める余地		余地なし	当面余地なし	余地あり				
課題の総括		各協議会の活動への支援などを通じて、それぞれの地域に根付いた、主体的な取り組みに繋げるための施策を引き続き積極的に展開するとともに、より効果的な事業内容とするために、事業計画の把握やその情報発信を行ったり、必要に応じて活動内容に関する相談に応じるなどの対応を行いたい。 修景事業への補助、景観行政団体への移行支援、住民協定の締結促進については、動向の把握に努め、支援を継続するほか、実施内容などの有効性を常に検証し、必要に応じて事業内容へのフィードバックを行う。							